



トウキ 当帰

Japanese Angelica Root ; ANGELICAE ACUTILOBAE RADIX

基原 セリ科 (*Umbelliferae*) のトウキ *Angelica acutiloba* Kitagawa または ホッカイトウキ *Angelica acutiloba* Kitagawa var. *sugiyamae* Hikino の根を、通例、湯通ししたもの。

当帰とは トウキは日本特産の多年草で、日本各地で栽培されている。かつて北海道では変種のホッカイトウキが多く栽培されていたこともある。トウキは茎や葉柄が赤色を帯びるのに対し、ホッカイトウキはより大型で、茎や葉柄が緑色である。根を乾燥したものが生薬「当帰」である。日本を代表する生薬の1つで、奈良・和歌山で栽培が続けられてきた。これらは大深当帰(大和当帰)と呼ばれ良品とされた。中国で使用される当帰は *Angelica*

sinensis に由来し、同じ生薬名でありながら日本と中国で別の植物を使用している。当帰の名の由来は諸説あるが、嫁が当帰を服用して元気になり、夫(婚家)に「まさ(当)に帰る」ことができたことが語源といわれる。おもに婦人病薬として知られる。



Angelicae Acutilobae Radix

- **主な成分** フタリド類 (ligustilide), クマリン類, ポリアセチレン類など
- **主な薬理** 免疫賦活作用 (マウス)¹⁾²⁾, 血小板凝集阻害作用 (*in vitro*)³⁾⁴⁾, 抗アレルギー作用 (ラット)⁵⁾, 抗炎症作用 (ラット, マウス)⁶⁾⁷⁾, 鎮痛作用 (マウス)⁸⁾, 向精神作用 (マウス)⁹⁾
- **性味** 甘・辛, 温
- **帰経** 肝・心・脾経
- **薬能** 補血活血・調経止痛・潤腸通便
- **主治** 血虚萎黄・眩暈・心悸・月経不順・無月経・月経痛・虚寒による腹痛・風湿による痺痛・打撲による損傷・癰疽・瘡瘍・腸燥による便秘
- **古典** 古方薬議 咳逆上気, 婦人漏下, 心腹諸痛を主り, 腸胃筋骨皮膚を潤し, 中を温め, 痛を止む。